

下水道展に初出展

管路診断コンサルタント協会

マンホール・管口点検の新技術 「管診鏡MC・PC」

当協会は、下水道展に初出展し、令和2年11月から販売を開始しているマンホール・管口点検の新技術「管診鏡MC・PC」、
「下水道管路施設改築・修繕に関するコンサルティング・マニュアル(案)」—平成28年版—や各種歩掛といった発行図書などを展示します。ここでは、老朽化が進む下水道管路の効率的な点検・調査に寄与するために開発した管診鏡のマンホールカメラ「MC」と管口カメラ「PC」の2製品の概要や特徴を紹介します。

【管診鏡MC】

管診鏡MCは360°カメラと360°照明、6.0mの伸縮ポールにより構成され、地上からマンホール内部の全体像を1度に撮影、その場で確認できる製品です。全周を一度で撮影できるので撮影漏れがありません。

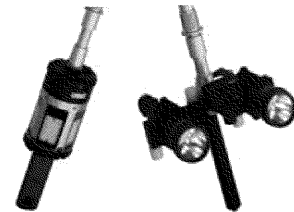
カメラはRICOH製のTHETA Vを標準で付属しており、スマートフォン、タブレットにTHETA用アプリをダウンロードすることで、手軽に操作ができます。4Kレベルの高画質映像で、クラックや錆、腐食などの異常を確実に点検できます。

【管診鏡PC】

管診鏡PCは、高解像度カメラと高輝度LEDライト、6.0m伸縮ポールにより構成されます。MC同様に、4K画質、地上からの撮影、スマートフォン・タブレット操作可能となっています。カメラは小型のポータブルカメラであるSony製のRX0-IIを使用し、小口径管まで対応しています。

【特長・メリット】

管診鏡を活用することで、マンホールに人が立ち入ることなく安全かつ効率的に高



マンホール点検用の管
診鏡MCと管口点
検用のPC

画質な管内画像を取得できます。また、当協会は管診鏡による点検マニュアル、点検報告書の様式、点検業務の標準歩掛を準備しており、業務の標準化を図っています。さらに管診鏡は、汎用的なカメラを有効に活用することで、低価格での提供を実現しました。健全な下水道の機能を維持するには、維持管理データを確実に蓄積することが必要不可欠です。当協会は新技術・ICT技術の導入により、これに貢献しています。